

ボーリング調査の実施状況

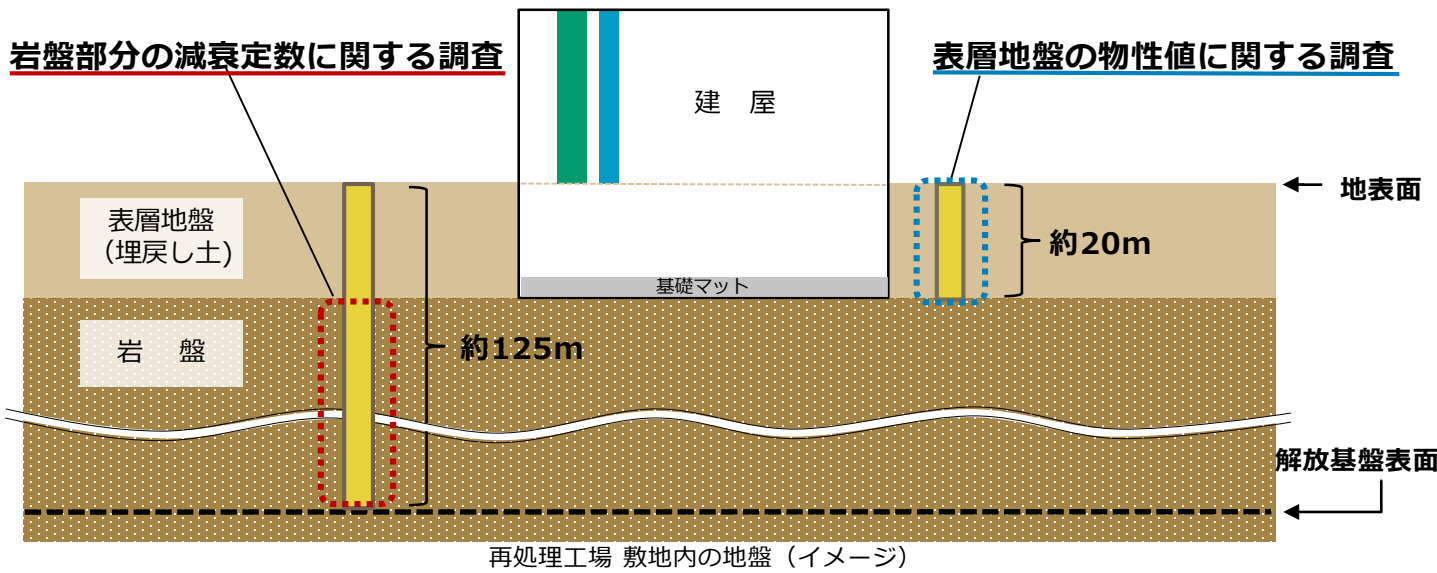
当社は、再処理施設の耐震評価の前提となる「基本地盤モデル」の検討にあたり、説明性の向上と更なる安全性の追求のため、原点に立ち返って、一から地盤モデルを作り上げておく必要があると判断し、敷地全体の地質特性を深さと平面において、より一層網羅的に把握するため、8月から追加ボーリング調査を実施しています。

現在、当社では「岩盤部分の減衰定数に関する調査」と「表層地盤の物性値に関する調査」の2種類のボーリング調査を行っており、どちらも計画通りに進んでいます。

【調査の概要】

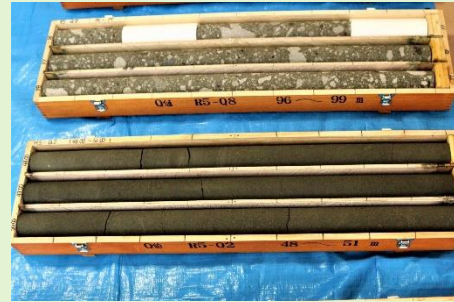
「岩盤部分の減衰定数に関する調査」では、地表面から約125mの深さに設定した解放基盤表面と呼んでいる位置までの振動の波形データを収集するために掘削を行っています。これまでに計画した12本全ての掘削作業を終えており、現在、得られた波形データをもとに減衰定数を求めるための解析を行っています。

「表層地盤の物性値に関する調査」では、地表面から約20mまで掘削し、建屋近傍における埋戻し土の振動の伝わる速度と密度のデータを収集しています。



再処理工場 敷地内の地盤 (イメージ)

【調査の様子】



*岩盤部分の減衰定数に関する調査の様子

引き続き、一日も早いしゅん工に向けて、オールジャパン体制で取り組んでまいります。